

受けとめる ～どう受けとめる？子どもの気持ち～

| | |
|------|--|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもとの日頃の会話やふとした行動、表情等から子どもの気持ちや思いを理解する。 ● 子どもの思いを受けとめるために必要な、親としての心構えを考える。 |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ● 親子の話し合いの基本である「聴くこと」を体感する。 ● ロールプレイを通して、親子の心の動きを確認し、子どもの気持ちの受けとめ方を学ぶ。 ● 参加者の「気づき」等を出し合い、今日の学習を振り返る。 |
| ポイント | <div style="border: 1px solid #6aa84f; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【進め方の重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ロールプレイが本テーマの中心となるワークであるが、参加者のエピソードからロールプレイを作り上げる作業は大変なので、ロールプレイ補助シートを渡すとともに、グループの進捗状況を確認し、適切にフォローする。 ● ロールプレイは、子どもの気持ちになれると同時に、親自身の思いや態度も客観的に見ることができるので有効ではあるが、人前で演じることが苦手な人も多いため、決して無理強いはいしない。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 顔をつき合わせたコミュニケーションの重要性を認識するため、話し手と聞き手に分かれて様々な“受けとめ”を行い、どのように感じたかを話し合う。 ● “受けとめ”に必要な聴くことの重要性がグループ内で認識できたところで、「子どものことが分かっていない」、「子どもに分かってもらえない」と思う体験を出し合う。その際、特別なエピソードではなく、あくまでも日常の中から出してもらうことを意識して、宿題やお手伝い、食事、子ども同士のけんか等のイメージを誘導する。 ● 出されたエピソードの中から、どの家庭でも起こり得るようなものを選んで、グループで脚本を作成し、場面や登場人物の表情等も確認しつつ、全員の前でロールプレイを行う。 ● 時間があれば、様々な立場での“受けとめ”を体験するため、参加者の役割を変えてみる。 ● 最後に、本日の体験を通して、子どもと接する際の親としての心構えについて話し合いを行う。 |
| 準備物 | <ul style="list-style-type: none"> ● 筆記用具 ● 資料(P35) |

プログラム進行例

| 時間 | 展開 | ポイント・留意点 |
|----|---|--|
| 5分 | 支援者から挨拶と自己紹介 今回のプログラムの趣旨説明 3つの約束の確認 | <ul style="list-style-type: none"> ● 和やかな明るい雰囲気になるように心掛ける。 ● ねらい・活動の流れ等について、ポイントを絞って説明する。 ● 3つの約束を守るよう周知する。 |

| | | |
|--------------------------|--|---|
| 10分 | <p>アイスブレイク アイスブレイク集から適宜選択して実施</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 和やかな雰囲気作りとともに、参加者の自己紹介をかねる。 ● 状況により省略してもよい。 |
| 15分 | <p>いろいろな受けとめ方の体験</p> <p>◎「話し手と聞き手の2人組になってください。」</p> <p>◎その1(相手にされない) 1分 「話し手は、子どものことや自分のことを自由に話してください。聞き手は、あいづち・返事をしないで、無視してください。どんな気持ちになったかメモしておいてください。」</p> <p>◎その2(きちんと聞いてもらう) 2分 「同じ相手で、話し手はそのまま続けて話し、聞き手は、心をこめて聴いてください。どんな気持ちになったかメモしておいてください。」</p> <p>◎「話し手と聞き手を交代して、同じことをやってみましょう。」</p> <p>◎「その1とその2では、どちらが長く感じましたか。実は、その1では1分、その2では2分、時間をとりました。その1の方が実際に話しをした時間は短かったのですが、無視をされているので、おそらく長く感じたのではないのでしょうか。」</p> <p>グループでの感想の出し合い</p> <p>◎「それぞれどんな気持ちになったのか、グループで話し合いましょう。どんな話が出たのか発表してもらいます。」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 話し手・聞き手の確認をする。 ● 3人の場合は、話し手1人に対して聞き手2人でも可能。 ● 話の内容は何でもよいが、できれば子どもの話題がよい。 ● その1では後ろ姿に話しかけ、その2では八の字の角度で斜めに向き合う等する。 ● 時間がなければ、その1とその2を同じ時間(1分)でもよい。 ● 時間がなければ交代を省略してもよい。 |
| <p>重点 45分</p> | <p>ロールプレイの体験</p> <p>◎「『子どものことが分かっていないなあ』『子どもに分かってもらえないなあ』と思うことを出し合ってください。」</p> <p>◎「いろいろ出てきたと思いますが、出し合った話の中から1つ選んで『分かり合えない親子』の一コマをエピソードのように親子の会話を思い出しながら作ってください。」</p> <p>◎「ロールプレイをしてみましょう。グループ4~5人の中で、親役・子役・聞き役を相談して、演じてください。終われば、配役を入れ替えてください。」</p> <p>◎「ロールプレイをしてみて、気がつかれたことはどのようなことでしょうか。グループで話し合いましょう。」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● エピソードでイメージしにくい場合は、宿題・お手伝い・食事・テレビ・ゲーム・子ども同士のけんか等の場面で、「早くしなさい」「いいかげんにしなさい」「子どもが答えてくれない」などのシチュエーション例をヒントとして提示する。 ● 資料「ロールプレイ補助シート」を活用して、現実の一場面を切り取る。 ● てれくさが強い場合は、役柄に徹してもらえるように、支援者と参加者で見本としてかけ合いをしてみる(エピソードを活用)。 ● 仕上がりの早いグループに見本としてやってもらう。 ● グループ、また全体で、やってみて感じたこと、見て感じたことを出し合ってもらおう。 |
| 15分 | <p>活動の振り返り</p> <p>◎「それぞれのグループで、いろいろな立場になってみてどうでしたか。グループごとに発表してもらいましょう。制限時間は3分ですので、まとめて話してください。」</p> <p>◎「ありがとうございました。今日は、自分のこと、お子さんのことでいろいろと感じられたことと思います。皆様のご意見を聞いて、子どもとの向きあい方や言葉の受けとめ方一つで、子どもも親も、生き方まで変えてしまうことが再確認できたように思います。」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 相手の立場を体験することで、子どもの気持ちに気づき、あるべき親の受けとめを考えてもらう。 |